

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	斉藤 実			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	実際にお客様がいる状態での避難訓練をコンサート形式で行い、ショッピングプラザ鎌ヶ谷や各センターと共に有事での対応に備える。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	避難訓練コンサートを継続して行うとともに、市民会館来場者の利便性を図るため、ロビーでWi-Fiが利用できるよう整備する。
②①に基づく取組み結果	6月に避難訓練コンサートを実施し、ショッピングプラザ鎌ヶ谷及び各センターと連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要		市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)		各施設の来場者数が概ね増加している。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果		来場者数は概ね増加傾向である。					
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	きらりホール	57,047	57,402	58,349	人	業務取得
	ii	中央公民館	98,295	101,735	103,462	人	業務取得
	iii	多文化共生推進センター	2,827	2,383	2,494	人	業務取得
	iv	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター	5,010	5,977	5,356	人	業務取得
③事務事業のコスト		平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)		114,081	115,509	金額(千円)	内容	116,205	
国支出金(千円)				11,166	光熱水費		
県支出金(千円)				12,769	清掃委託		
市債その他(千円)				80,987	市民会館賃借料		
一般財源(千円)		114,081	115,509			116,205	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制のさらなる強化				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ヶ谷との連絡体制をより強化する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	斉藤実			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	ポスター掲示場所やチラシ頒布場所の拡大など周知方法を改善し、来場者の増加を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等を見直すとともに、事業の目的を、より効果的・効率的に達成するため、令和2年度からの指定管理者制度導入に向けて、指定管理者を募集・選定する。
②①に基づく取り組み結果	ポスター掲示場所やチラシ頒布場所を拡大し、市民創作ミュージカルの参加者増加などが見られたが、全体的な主催事業来場者数は減少した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民(施設利用者)	意図(対象をどうするのか)	市民の文化活動をサポートする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民のニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	全体的なきらりホール来場者数は増加している。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数	57,047	57,402	58,349	人	業務取得
	ii	主催事業来場者数	5,854	5,130	4,545	人	業務取得
	iii	貸館件数	169	174	189	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	46,846	44,050	金額(千円)	内容	47,887		
	国支出金(千円)		5,611	報償費			
	県支出金(千円)		180	手数料			
	市債その他(千円)	16,548	14,642	28,366	舞台保守管理委託	19,605	
	一般財源(千円)	30,298	29,408			28,282	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	きらりホール主催事業での来場者が減少している。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	きらりホール主催事業の内容、実施時期、PR方法等見直していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新たな文化財指定に向けての資料整備や事務を進める。 埋蔵文化財の窓口問い合わせに対して、引き続き情報の共有化を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	市指定文化財のき損、滅失することのないよう所有者・管理者と連携を図りながら適正な管理をする。また、新指定文化財の周知を図ると共に新たな指定物件の検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	新たに「初富開墾関連資料」(7点)を市指定文化財として指定した。 埋蔵文化財の窓口に関して、同じ対応ができるよう情報の共有を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図(対象をどうするのか)	現状保存を目指す、不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財(遺跡)の保存策を講じる必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市指定文化財29点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。 埋蔵文化財確認のあった41件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する7件の確認調査、中沢貝塚で1件の本調査及び一本松遺跡の整理作業を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	発掘調査件数	6	10	8	件	業務取得
	ii	発掘調査面積	6,286	856.5	920	m <sup>2</sup>	業務取得
	iii	埋蔵文化財窓口確認数	741	810	796	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	8,010	3,895	金額(千円)		内容		7,458
国支出金(千円)	3,948	1,102	300		指定文化財管理		1,983
県支出金(千円)	1,919	276	2,474		非常勤職員賃金		516
市債その他(千円)	932	0	281		使用料及び賃借料		0
一般財源(千円)	1,211	2,517					4,959

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	埋蔵文化財保護事業は現状保存を目指しているが、開発を伴うため発掘調査等による記録保存を行う事が多い。文化財を未来に伝えていくための保護業務が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	文化財保護事業は行政の責務であり、各種開発が本市でも行われていることから、継続して実施する必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくれます	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	各種発表への参加のしやすさ及びワークショップ実施行事を増やし、更なる活動者の増加を図る。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	引き続きワークショップを実施し、芸術・文化活動への参加者の増加を図る。
②①に基づく取組み結果	H29年度に引き続きワークショップを実施し、市民参加の機会の創出を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図(対象をどうするのか)	芸術文化に関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業(市民文化祭、市民美術展覧会、芸術鑑賞教室等)の実施。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民(団体)の増加が予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市民文化祭の実施および芸術祭の共催、芸術鑑賞教室(能楽・歌舞伎・文楽・美術)の実施。成果指標 ii は市芸術文化事業への参加・発表者数である。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	鑑賞教室応募者数	357	441	466	人	業務取得
	ii	参加・発表者数	1,725	1,353	1,352	人	業務取得
	iii	市芸術文化事業来場者数	10,825	9,158	9,464	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,681	1,876	金額(千円)		内容	1,971	
国支出金(千円)			1,238		非常勤職員賃金		
県支出金(千円)			21		芸術鑑賞教室		
市債その他(千円)			300		市民文化祭負担金		
一般財源(千円)	1,681	1,876	310		市展負担金・芸術文化団体補助金	1,971	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民の多様な芸術趣向に応え、多くの市民が参加できる機会や、来場のきっかけを作っていくことが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	芸術文化の発表および鑑賞の機会の提供は地域の芸術・文化意識の向上に必要なため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、史跡の適正な保存を図るため、清掃管理を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	国史跡の適正な管理を行うとともに、参加者が減っている周知イベントについて、参加者の増加を図るための方策を検討し、更なる周知を図っていく。
②①に基づく取り組み結果	周知イベントを通じて、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡を定期的に見回り清掃管理を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡 捕込・野馬土手	意図(対象をどうするのか)	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び清掃。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および保存管理を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が寄せられている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	清掃委託業務及び職員による作業によって、捕込の維持管理を行った。また、周知普及イベントを11件行い、史跡の重要性について伝えるとともに、広く史跡の存在についてPRした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,332	6,332	6,332	m <sup>2</sup>	業務取得
	ii	周知普及事業参加者	3,938	2,704	3,421	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	2,499	2,477	金額(千円)	内容	2,800		
国支出金(千円)			477	清掃管理委託			
県支出金(千円)			2,000	実行委員会負担金			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,499	2,477			2,800		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	史跡地の更なる周知の裾野を広げることを目指して、事業展開していくこと、また、財政状況を見極めた上での活用のための史跡整備事業の実施の検討は必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	史跡地を保護活用し、周知普及事業の実施や、清掃管理を行い、史跡に対する市民意識の醸成を図ることが必要となるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	史跡清掃管理・周知普及活用事業	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	史跡清掃管理・周知普及活用事業を実施した	2,500	2,500	当初	2,500	2,477	H29からの繰越	0
				H29→30繰越	0			
				補正	0			
③達成状況	完了			流用・充当	0		現年分	2,477
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)						0

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	埋蔵文化財緊急調査事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	出土資料を図化するにあたり、業務対象資料を抽出する必要がある。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	総量180箱(整理用コンテナ)の出土資料の中で、ある程度形が復元できる資料の復元作業を行い、状態の良いものについて図化を図る。
②①に基づく取組み結果	出土した資料の整理作業(水洗洗浄・注記作業)を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一本松遺跡	意図(対象をどうするのか)	調査成果をまとめて発掘調査報告書を刊行する。
②事務事業の概要	平成28年度に本調査を実施した一本松遺跡の出土資料を整理、分析し、発掘調査報告書を刊行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現地説明会を実施したところ、100名を超える見学者があったが、後から情報を知った市民から、見学要望が相次いだため、再度説明会を開催をしたところ、100名近い見学者があり、地元の遺跡や歴史に対しての関心は高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	平成29年度から継続している遺物の洗浄注記作業を実施した。整理用コンテナ180箱の内昨年までに100箱の洗浄が終了していたため、残りの80箱分の遺物の洗浄・注記作業、および出土した貝類の洗浄作業を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	整理済みコンテナ箱数		100	80	箱	業務取得
	ii	従事作業員数		990	933	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	5,607	3,912	金額(千円)	内容	6,232		
国支出金(千円)	2,803	1,938	3,843	非常勤職員賃金	3,089		
県支出金(千円)	700	484	68	需用費	772		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,104	1,490			2,371		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	基礎整理作業の後、出土資料の図化業務、写真撮影等を行い、報告書作成のための図版、原稿作成を行う。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	一本松遺跡の整理作業が進み、図版作成のため出土遺物実測委託をする必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	出土資料の整理作業及び分析	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	出土資料の整理作業及び分析を行った。	4,818	4,818	当初	4,818	3,912	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		現年分	3,912
				補正	0			
③達成状況	完了			流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)					0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	三石 宏			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市史編さん事業から引き継いだ資料整理を継続して実施するとともに、その利用方法について検討する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	資料整理を継続して実施するとともに、資料化を図ったものが活用できるよう、環境の整備を行う。
②①に基づく取り組み結果	郷土資料(歴史的公文書を含む歴史資料と民俗資料)の収集・整理、企画展・ミニ展示などの開催、講座・教室の実施、講師派遣などをボランティアの活用をして行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図(対象をどうするのか)	先人の足跡を辿り、その生活など知ること、ふるさと意識の醸成をはかる
②事務事業の概要	郷土の歴史・民俗等に係る資料を収集・調査・研究・整理するとともに資料の展示及び各種の講座、教室等を開催する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用者数は、前年度の7,751人から、6,360人と減少している。これは、展示が1回減った影響と思われる。講座等は一定の市民参加があり、歴史や文化財への興味・関心は高く、更に幅広い年代の市民に関心を持ってもらう工夫が必要である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	(1)郷土資料の調査・収集 (2)常設展示 (3)企画展とミニ展示 (4)講座・教室 (5)講師派遣					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 来館者数	6,323	5,481	4,209	人	業務取得
	ii 展示事業実施回数	3	3	3	回	業務取得
	iii 教育・普及事業実施回数	63	53	47	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	12,977	9,497	金額(千円)	内容	13,003	
国支出金(千円)			4,910	非常勤職員賃金		
県支出金(千円)			526	印刷製本費		
市債その他(千円)			623	リーダープリンター使		
一般財源(千円)	12,977	9,497			13,003	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現状の施設を利用し、かつ、資料館ボランティアの協力なども得て、できるだけ合理的に事業を行いかつ、来場者向上のための工夫も求められる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	資料の調査・収集・保存・研究をおこなうとともに、その成果として展示、教育・普及事業などを行う必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				